

平成 29 年 12 月 27 日
株式会社 鹿児島銀行

PC 操作内容可視化ソフト「MeeCap」の導入について

鹿児島銀行（頭取 上村基宏）は、働き方改革実現に向けた業務改善のため、作業実態把握・分析システムとしてパソコン操作内容を可視化するソフト「MeeCap」を導入しましたので下記のとおりお知らせします。

記

1. 目的

パソコンの操作履歴等の蓄積から、効率的な操作や業務の流れを可視化し分析することで、働き方改革実現に向けた生産性の向上を図ります。また、パソコン上の全ての操作履歴が記録・蓄積されることから従業員のナレッジマネジメント（知識伝承）にも役立っています。

2. 「MeeCap」について

「MeeCap」は株式会社サザンウィッシュ（代表取締役 徳留健朗）が開発した「PC 操作内容可視化ソフト」で、いつ（何時何分何秒）、どこで（どのアプリケーション、ファイル）、どんな作業をしたのか（どのキーボードを打ったか、どこをクリックしたか）等のパソコン上の操作を全てログとして記録することができます。

このように「MeeCap」を使用すれば、日常の業務が全て可視化でき、熟練者のノウハウやスキルの伝承に役立ちます。

3. 導入日

平成 29 年 11 月 6 日

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

鹿児島銀行 経営企画部 経営企画グループ
TEL : 099-239-9720（ダイヤルイン）

MeeCap について（補足）

MeeCap は株式会社サザンウィッシュがエンジニア用 EdTech (※) ツールとして独自に開発したもので、パソコン上の作業プロセスを可視化し作業効率の向上を可能にするソフトです。全てのパソコン操作が可視化・記録され、画面上で起きたこと及びそれを引き起こしたアクション（キーボード操作・マウス操作）が分かりやすく表示されます。

例えば、熟練したエンジニアが行なう効率的なパソコン操作を初心者に学習させる場合、相応の人的資源と時間を要しますが、MeeCap を活用することで、このような課題を解決し、効率の良いナレッジマネジメント（知識伝承）を行うことが可能となります。

MeeCap は、サザンウィッシュ社内での活用成功事例をもとに、製品化され、特許の取得にもいたりしました。

(※) EdTech とは、Education（教育）と Technology（テクノロジー）を組み合わせた造語で、教育とテクノロジーを融合させ新しいイノベーションを起こすビジネス領域として注目を集めている。

MeeCap の活用事例 【働き方改革へ向けた業務分析】

例えば、ある一定期間の作業内容を MeeCap でデータ取得し、詳細な分析をすることで作業効率の改善に役立てることが出来ます。可視化された作業プロセスは、全社員分となると膨大な量となるため AI による解析を導入しています。また MeeCap AI はリアルタイムに分析を行い、日々レポートを出すため、業務改善状況の定量的な把握が可能となります。業務ごとの分類・分析をし、最適な業務処理の方法、システム投資方針のアドバイス、従業員教育や業務モデルの再構築への利用を推進しています。

■分析レポートサンプル（グラフを用いた分かりやすいレポート）



■分析観点

ユーザ分析

- ・業務処理速度比較
- ・期待収益と投入労働量との比較
- ・画面遷移方法比較
- ・優秀なユーザの業務処理方法分析
- ・業務実施時に同時参照しているアプリ分析
- ・コミュニケーション発生タイミング分析
- ・繰り返し業務の抽出
- ・判断時間の短い業務抽出
- ・ショートカットKey使用回数ランキング

システム分析

- ・画面別参照回数ランキング
- ・画面別滞在時間ランキング
- ・画面別のKey入力・mouse操作回数調査
- ・複数アプリ間のコピー＆ペースト調査
- ...他